

第4回交通まちづくり懇談会 議事要旨

日 時：平成 17 年 2 月 17 日（水）

場 所：宇都宮市総合福祉センター 9 A 会議室

参加者：森本、古池、奥備、森崎、石川、小林、藤平(元)、小野、阿島、柳田、松本、
藤平(昌)、小針、梅林、稲葉、加藤、山本、古谷、久保

[次第]

開会の挨拶（事務局）

座長挨拶（座長）

議事（交通まちづくりに対する提案書(素案)について）

次回の予定について（事務局）

閉会の挨拶（事務局）



懇談会の様子

<交通まちづくりに対する提案書(素案)について> ...事務局より説明

座 長：まず、「問題・課題認識」と「交通まちづくりの目標」について議論していただきたい。

参加者：「駐車場があればまちが栄える」という議論があるが、この部分は議論を深める必要があると思われる。また、「駅の地下を抜く東西の道路をつくるとまちが栄え

る」という意見があるが、こちらも議論が必要である。

座長：駐車場や道路の話は、まさに車で来ることがまず前提となっている。車で来なくても良いまちづくりをしたらどうか、というのが1つあると思う。

参加者：一人乗りの自動車の進入禁止等の施策を採れば自動車以外の交通機関の利用促進に繋がる。

座長：自動車の使い方を考えれば問題の解決に繋がるという意見をいただいた。

事務局：自動車の使い方については、地域により異なる話で、本来はもっと議論が必要な部分であるが、今は「公共交通」を中心として議論していただいているのでp.6のように簡単に整理している。

参加者：バスの乗降時、路上駐車車両のために停留所から離れて停車した場合、乗降がし辛い、これは「公共交通の質の問題」もあるが、「道路の使い方の問題」と言えると思う。

参加者：関東バスに再生機構が入っているが、これは関東バスのみで済むのか。再生機構が入った後は動き辛くなってしまわないか。

事務局：再生機構により、関東バスはまずバス事業以外の事業(ホテル等)について切り離すことになったと聞いている。社長も変わるという話がある。平成17年度は現路線は確保していきたいという意向とのことだが、動きが出るのはもう暫く後になると考えられる。関東バス以外のJRバス、東野バスには今のところ再生機構は入っていない。

参加者：民間が経営について交通政策課に意見を聞く(例えばどういう路線がよいか、等)ということはないのか。

事務局：かつてはバスは許認可制であったが、現在は規制緩和のために自由になっている。財政補助の相談はあるが、規制はできない。

参加者：現在は3台以上のバスを所有していれば誰でも路線バスを運行できる。現在200社あり、細かなサービスができるようになるので、大手バス会社が路線バスを運行する時代はあと4~5年と思う。持論だが。

参加者：情報一元化の制度、組織の導入を検討すべきである。複数事業者で同じ路線で同じサービスを提供するのは効率が悪い。

参加者：客から見ればいろんなサービスが提供されると良いが、事業者から見ればどこかが犠牲になることを考えておく必要がある。

参加者：自動車で道路を通行するのは無料なので、公共交通は無料あるいは行政補助で運行しないと自動車には対抗できない。

参加者：お年より、学生、子供等、利用者の誰もが納得できる料金設定やシステムを提供していかなければならない。

参加者：公共交通は周辺との整合を採っていかなければならない。(乗り継ぎ部での駐車場等)

また、市街地には何かの目的を果たすために出て来るのであって、まちに魅力のあるものを作らなければならない。

参加者：公共交通の導入のためには、行政により赤字が補填されないと成り立たない。

鹿沼では関東バスの路線バスの廃止後、「リーバス」が市のサービスにより運行されている。

参加者：行政の補助には限界がある。住民側が自動車ではなく公共交通に乗ろうという意識を持つように意識改革が行われないと、利用率は上がらないと思う。住民、行政がそれぞれの役割を果たしていく必要がある。

参加者：老人が宇都宮へ出向く目的の多くは病院である。一方若者は賑わいのある場所を好むように、老人と若者では視点が違う。

参加者：軌道形の交通がなく、バスサービスが比較的高頻度で提供されている宇都宮の人々が公共交通の問題について認識できているのか疑問である。「公共交通」はまちの財産であることを宇都宮市民に認識してもらうことがまず必要である。

参加者：「交通まちづくり」というのは「宇都宮市内」を考えているのか、「郊外を含めた範囲」を考えているのか、事務局に伺いたい。

事務局：「交通」というのは市内で完結するものではなく郊外に繋がっている。よって、宇都宮市と郊外市町を含めて交通まちづくりを考えていくこととしている。

参加者：現在の提案中の整理は、どちらかと言えば宇都宮市内の話になっている。郊外をもっと含めたものにしていく方が良い。

きぶなの採算性はとれているのか。

事務局：きぶなの運行に対して、市は補助はしておらず、関東バスの企業努力で運行している状況である。企業内の話なので明確に把握できていないが、おそらく経営は厳しい状況であると思う。

参加者：宇都宮市の交通機関や駅・バス停等では交通機関に関する情報が効果的に発信されていない。

座長：今まで議論していただいた内容について、空間的に展開していきたい。事務局にまず説明をしていただきたい。

(事務局より説明)

参加者：この会は「県央」という範囲で集まっているが、県央地域は1つの都市圏としてまとまっているので、そういう視点で議論をしていくべきである。

また、京都議定書の話について提案に盛り込んでいけないか。

また、採算性について、バス事業者は赤字路線に予算をつぎ込むわけにはいかないので、合併や統合等も必要になってくると考えられる。

参加者：まちづくりに関して、他国の事例を見るときには、日本と海外の「社会の違い」が問題になると思う。ヨーロッパと同じものが日本でそのまま受け入れられるかどうかという問題がある。

欧州化が必要な時期に来ているのだと思うが、市民、企業、行政が一体となって欧州の例を日本へどのように導入していくのかについて議論していく必要がある。

事務局：説明した内容については、まちづくりを考えるにあたってのヒントとして提示したもので、それをそのまま導入していこうというのではなく、日本で実現するためにはどうしていけばよいのかを議論していただきたい。

参加者：1つの地域だけが発展するというのは難しいと思う。芋づる式に、周辺地域と一体となって発展していく必要がある。

人と人との繋がりでまちは発展していくものだと思う。人が出会う仕掛けを作っていくことが必要である。

参加者：主に、宇都宮にどうやって人を集めるかという視点での議論になっているが、郊外の人間からいえば、郊外の市町にどうやって人に来てもらうかが問題である。一方通行でなく相互交流として考えていくことが必要である。

参加者：外から見たときの、人を集めるための「売り」となるものが必要である。

参加者：市民の意識を向上させていくことが必要である。そのために1つ、「情報提供」が必要である。また社会実験もいろいろと行われているようだが、市民が実際に参加して行ったということをつかまない。何か仕掛けをして市民を巻き込んでいけるようにすべきである。

座長：利用者の視点が非常に重要であるというのは共通認識できたと思う。利用者の視点からいろいろな課題を提案したので、整理していただきたい。また、市民の意識を向上させてすべて行政頼みにするのではなく、市民の方でできることはやっていきましょうということについては合意が取れたのではないかなと思う。

本日の意見をまとめて次回第5回交通まちづくり懇談会をしていくわけだが、別途開催の検討委員会に1度今日の意見をまとめた形で投げて、専門家の先生方に空間に展開していただき、それを基に第5回で議論していきたい。

検討委員会

委員長：公共交通について、利用しやすい交通というのは何かという話で、参加委員から無料にしないと自動車と対抗できないという意見があったが、確かにアメリカのポートランド等は市内は無料になっている。料金についてはいろいろな仕組みがあるので、皆さんでいろいろ検討していただきたい。

参加委員からの意見があったが、公共交通の運営について、市民が協力していくという認識が持てれば、税金の一部を使うことも可能であると思われる。そういう意識が得られるかどうかポイントとなる。

参加委員が指摘されたように、海外の事例が日本に適用できるのかと言う話も良く出されるが、最後は人と人のつながりなので、これは欧州も日本も同じなので、うまく日本向きにすれば適用可能と考えている。

また、手段としての交通の整備をすれば来てもらうことはできるようになるが、

実際に人に来てもらうためには、人を呼べるようなまちづくりをしていかなければならない。

事務局：次回、もう一回交通まちづくり懇談会を開催する。日程は 3/25 の 13：30～とする。

以上